

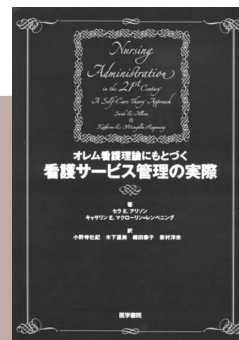
看護師の知的創造性の 促進をめざして

[評者] 原田博子 萩市民病院看護部長

オレム看護理論にもとづく 看護サービス管理の実際

セラ E. アリソン・キャサリン E. マクローリン＝レンペニング 著
小野寺杜紀、木下里美、細田泰子、新村洋未 訳

B5 判, 216 ページ
定価 3360 円(本体 3200 円+税 5%)
医学書院 TEL. 03-3817-5657



■待望の本格的理論書

日本看護協会による認定看護管理者認定審査は、今年度で第9回目を迎えます。その登録数は全国で134名(2005年1月現在)になりましたが、その数はまだ十分とはいえません。また、大学教育のなかで看護管理を専門的に学ぶには、全国にいくつかの看護系大学院があるのみです。看護理論が看護管理に有益であるという考え方は、1980年代から始まったばかりです。いままでは企業経営学など、他の領域から借用した知識であったと言われても仕方がなく、本書のような本格的理論書が待ち望まれていました。

オレム看護理論に関する翻訳者といえば、今回もそうであるように小野寺杜紀氏だと誰もが認識しているかと思います。『オレム看護論』は日本語版では第4版まで改訂が進んでいますが、そのたびにオレムは新しい知識と洞察とを看護にもたらしたといわれています。そのオレムの著書の翻訳に長年携わってこられた小野寺氏だからこそ、あとかきで「身近なところから着手し、看護指向的機能と管理指向的機能の両方を併せもつ看護管理者がリーダーシップを発揮していくことが必要」、といえるのだと実感します。

■読みやすい構成のなかに多くの示唆

著者のアリソンとレンペニングは、セルフケア不足看護理論を適用した看護の実践や看護サービスの組織化と運用、看護教育プログラムの開発などに携わってその経験に基づいてこの本を書いています。特に看護管理に関して、看護実践に実質

的な変化をもたらそうとするならば、看護管理側のリーダーシップが不可欠であるとしています。

本書で特筆すべきは、オレム看護理論に関する本に通じる特長でもありますが、それぞれの章の内容にもとづいて、読者が読みやすいよう構成している点です。例えば、オレム自身が序の部分で述べているように、第1・2・4章は看護が生産される状況とその場の特徴について、第3・5章は看護実践者や看護管理者の責任と業務遂行について、第6～12章までは、保健医療事業における看護生産業務の固有で重要な特徴を記述しています。まるでオレム自身が意図してわかりやすく構成しているように、読み進めることができました。

さらに読み進めていくと、それぞれの章の中に、今まで日常業務のなかで看護実践者として、また看護管理者として感じていたことが明確に記されていることに驚かされます。多くの示唆を与えてくれる本書ですが、そのなかでも特にすばらしいと感じた点は、看護管理者は関係や環境を調整することよりも、看護師の知的創造性の促進という観点にもっと関心を寄せる必要がある、とされていることです。そして将来にわたって看護の保証をするには、看護は理論的見地から「思考すること」が重要であり、看護管理者も看護実践の指導者もメンタルモデルをもつことが必要だと述べられています。

看護管理者や指導者の方に、ぜひ今後の看護管理や看護実践に活用していただきたい書として推薦します。